

中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人電気通信大学

法人番号：31

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】</p> <p>(1) 教育に関する目標</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>①中期目標 (小項目1-2-2)</p> <p>『情報・通信分野に強みを有する本学独自の特色ある教育を行うため、ICTを活用した教育環境の整備及び電子化の進んだ学術情報の利用支援体制を構築する。』</p> <p>②中期計画1-2-2-1</p> <p>『ICTを活用した教育環境を整備するため、eラーニングやアクティブ・ラーニングを実施する施設・設備を整備するとともに、電子化の進んだ学術情報の利用支援体制を構築するため、図書館の使い方や電子ジャーナルの効率的な利用及び研究倫理などを指導する情報リテラシー教育を実施する。』</p> <p>【原文】</p> <p>①判定【3】進捗している</p> <p>②判定【2】中期計画を実施している</p> <p>【申立内容】</p> <p>①「【4】計画以上の進捗状況にある」と変更願いたい。</p> <p>②「【3】中期計画を実施し、優れた実績を上げている」と変更願いたい。</p> <p>【理由】</p> <p>中期計画1-2-2-1においては、ICTを活用した教育環境として附属図書館に整備した「UEC Ambient Intelligence Agora」(AIA)により、PBLにおけるアクティブ・ラーニング型授業等の多彩な学修形態に対応した環境を創出し、先進的な教育を可能とし、AIA整備前と比して、附属図書館利用者数が3</p>	<p>【対応】</p> <p>原案のとおりとする。</p> <p>【理由】</p> <p>当該中期計画に係る取組がなされていることが達成状況報告書等から確認できるものの、小項目に照らして「優れた実績を上げている」とまではいえない。</p> <p>また、当該小項目達成に向けた取組や活動、成果からみて、「優れた実績を上げている」とまではいえない。</p>

割増となったことが「特色ある点」として高く評価されている。また、中期目標の達成状況報告書に記載したように、本施設を活用した先進的な取組が評価され、平成29年度に文部科学省Webサイト「大学図書館における先進的な取組の実践例」に取り上げられた。

上記のことから、ICTを活用した教育環境を有した、アクティブ・ラーニングを実施する施設・設備を整備する点において、当初の目標を上回ったと判断でき、中期計画1-2-2-1の判定を「【3】中期計画を実施し、優れた実績を上げている」とすべきであると考え。また、中期目標（小項目1-2-2）についても、情報・通信分野に強みを有する本学独自の特色ある教育を行うための教育環境の整備という点において、先進性・独自性を有する取組として、当初の目標を上回ったと判断でき、「【4】計画以上の進捗状況にある」とすべきであると考え。

中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人電気通信大学

法人番号：31

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 (1) その他の目標 (2) グローバル化に関する目標 <中期目標 (小項目4-1-1) > 『国際交流協定締結大学及び機関と共同して運営する国際連携ラボ「グローバル・アライアンス・ラボ (GAL)」を活用し、学生間の交流を図り、学生の海外留学や海外派遣を促進するとともに、優秀な外国人留学生を積極的に受け入れ、教育内容と教育環境の国際化を進める。』</p> <p>【原文】 判定【3】進捗している</p> <p>【申立内容】 「【4】計画以上の進捗状況にある」と変更願いたい。</p> <p>【理由】 中期計画4-1-1-1においては、平成31年度の派遣学生数は、第2期中期目標期間最終年度と比して、76%増となっており、また、トビタテ！留学JAPANへの申請を希望している学生に対して、申請書作成指導や面接対策等を実施し、中期目標期間中に34名採択されていることが「特色ある点」として高く評価された。 また、中期計画4-1-1-2は、「戦略性が高く意欲的な計画」として認められたものであり、グローバル・アライアンス・ラボを基盤とした国際協働教育プログラムの実施、並びにUEC国際アンバサダーによる優秀な留学生獲得のための体制強化によって、平成31年度の留学生数は第2期中期目標期間最終年度と比して、約22.7%増加したこ</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 当該小項目達成に向けた取組や活動、成果からみて、「優れた実績を上げている」とまではいえない。</p>

<p>とが「特色ある点」として高く評価された。上記に加え、情報理工学域の現況分析において、平成31年度の派遣者数が第2期中期目標期間最終年度と比して、2.6倍増となっている点から、教育活動の状況が高い質にあると評価されており、教育内容と教育環境の国際化において、当初の目標を大きく上回ったと判断できる。したがって、目安となる小項目の下位の中期計画における各判定の平均値が2.50以上となっている、かつ上述のとおり教育研究の大きな質の向上に資する優れた実績があると考えため、「【4】計画以上の進捗状況にある」とすべきであるとする。</p>	
--	--